～わたしの読書模様～

「書物を買い求めるのは結構なことであろう。ただし、ついでにそれを読む時間も、買いもとめることができれば、である。」

天声人語に、紹介されていた哲学者ショーペンハウエルの言葉です。

私は、読みたい本は本屋で買って、手元に置いておきたい派です。家の枕元にも、教育長室の本棚にも、まだ読んでいない本があります。買ったはいいけど、読む時間は買い求められていない現実があります。ショーペンハウエルの言葉通りです。まだ読めていない本の中の、今一番に読みたい本は、村上春樹さんの「街とその不確かな壁」。読むべき時になったら読みたいと、今は、ひっそりと寝かせてあります。

読めていない本はありますが、だからといって、決して忘れているわけではありません。いつか、「読もう」と思えるときがやってくる。そう感じています。ではなぜ、私は本を買ってしまうのか。こんなことを言っている方がいます。

「読みきれるか心配して本を買うのをためらうとき、君は大きな損失をしている。買わない時点で読む選択肢は消えるのだし、その本に二度と出会えなくなるかもしれない。だからとりあえず買っておく。手元にあればいつでも読めるし、本は腐ったりしないのだから」

買ってきた本を部屋の本棚に置く。本が増え、部屋が少しずつ図書館化されていきます。本屋さんで、本を手に取る。わくわくします。タイトル、本の帯、本屋の店員さんが書いたポップ。本の中に広がる世界をイメージし、一行目を読んで「手に入れよう」と心が決まります。本を選ぶ、そのわくわく感が、部屋の中でも感じられるのがたまりません。まだ読んでいない本を手に取り、読み始めると、書店でその本を手にしたときの感覚がよみがえります。買ってよかった。読みたい。と心から思います。

第三次「矢吹町子ども読書活動推進計画」の第１章の１「子ども読書活動推進の意義」に、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないもの」と記しています。このことは、詩人の長田弘さんが、「読書からはじまる」の末尾に「すべて読書からはじまる。本を読むことが、読書なのではありません。自分の心のなかに失いたくない言葉の蓄え場所を作り出すのが、読書です。」と記した文と通ずるものがあります。

皆さんが、読書をとおして、「自分の心のなかに失いたくない言葉の蓄え場所を作り出し」「人生をより深く生きる力を身につけていく」ことができることを願っています。

令和６年４月　矢吹町教育委員会教育長　大杉和規

子どもの豊かな読書活動を目指して

Ⅰ　子どもが読書に親しむ機会の充実
Ⅱ　子どもの読書環境の整備と充実
Ⅲ　子どもの読書活動についての理解の促進

家　庭

- 家庭で読書を楽しむ「家読(うちどく)」
- 読書習慣の形成

園・学校等

- 読書習慣の確立
- 読書活動の環境
- 家庭への呼びかけ
- ボランティアの活用

地　域

- 家庭から地域活動へ
- 読書活動の整備
- ボランティア育成とネットワーク化

図書館等

- ブックトークの推進
- 読み聞かせの実施
- ボランティアの育成
- 読書活動推進の拠点

教育委員会

- 矢吹町子ども読書活動推進委員会の開催
- 「矢吹子ども読書100選」表彰

子どもが読書に親しむ町　矢吹